

「投薬は少量」浸透せず

大阪で認知症治療研究会

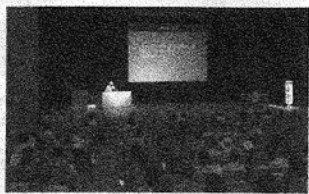
河野医師・長尾医師ら登壇

【第3回】認知症治療研究会関西支部 in 大阪 『自分らしく生きる』をみんなで支えよう』が、8月25日大阪市内で開催された。認知症医療とケアの最前線の情報を伝えるのが目的。

軽度の物忘れ 見極めが困難

基調講演1では名古屋フオレストクリニック河野和彦院長が「私は認知症？それとも発達障害？軽度認知障害の鑑別診断と療育制限の有効性について」と題し、基調講演2では医療法人社団誠弘会池袋病院平川巨副院長が、「認知症治療薬の使いこなし」と題し講演した。

また白熱トーク「家族として、施設職員と



▶当日の様子

して、認知症者と生きるには、長尾クリニック長尾和弘院長を座長に、認知症家族で作家・人気ブロガーの工藤弘伸氏と介護福祉士の俣喜儀氏が日ごろの体験から議論を深めた。

コウノメソッドで知られる認知症治療専門医の河野院長は、「軽度の物忘れ患者が、認知症なのか、発達障害なのかを慎重に診断する必要がある」と注意を促した。また類似的な症状を示す正常圧水



▶映画「病くない死に方」の撮影風景

頭症や慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症など治療可能な認知症も、アルツハイマーや血管性認知症と複合することが多く、認知機能の完全な回復は難しいが見逃すことはできないと警告した。さらに、認知症予防には、脳がインスリン不足でアミロイドβの分解力を低下させないよう糖尿病の予防、肥満解消が重要度が高いと解説した。

平川副院長も、「高齢者の認知症は混合型が多く、患者の生活クオリティを保つには薬剤の選択、投与量の管理に慎重さが求められる」と示唆した。特に、2010年6月1日に国が認知症治療薬

の少量投与を認めただけに、まだに周知されず、製薬メーカーの定める規定量を基準にしている治療現場が見受けられることに疑問を呈した。患者への過剰投与は、筋肉の硬直を招き、足が弱くなり転倒に繋がったり、嚥下機能を悪化させたりしてしまおう、と懸念した。

大阪府 放課後デイ処分

大阪府は、ONE HATTAN(吹田市)が同市内で運営する「放課後等デイサービスサンティパー江坂教室」に対して9月21日から3ヵ月間、指

定を全効力を停止する処分を行った。児童発達支援管理責任者が配置できていないにもかかわらず、給付費を不正に請求・受領していた。

捉えた認知症への学びから、求められる認知症治療、認知症者と共に暮らす地域づくりへの意欲の成熟を感じると述べ、この流れは研究会を大きく育て上げると信念を語った。

在宅医療テーマ 映画来年夏公開

また、長尾院長が執筆した在宅医療がテーマのベストセラー本「痛い在宅医」をモデルにした映画「痛くない死に方」が2020年夏に公開予定(監督・脚本:高橋伴明/主演:柄本佑)で、すでにクランクアップしたことを明かした。

「認知症研究会セミナー」は設立3年目を迎え、医師、介護関係者、一般市民など多様な分野から400人の熱心な聴衆が集まり、高まる潮流の熱気を感じさせた。3年の活動を振り返り、長尾院長は「分野を横断的に

年夏に公開予定(監督・脚本:高橋伴明/主演:柄本佑)で、すでにクランクアップしたことを明かした。

また、長尾院長が執筆した在宅医療がテーマのベストセラー本「痛い在宅医」をモデルにした映画「痛くない死に方」が2020

年夏に公開予定(監督・脚本:高橋伴明/主演:柄本佑)で、すでにクランクアップしたことを明かした。

また、長尾院長が執筆した在宅医療がテーマのベストセラー本「痛い在宅医」をモデルにした映画「痛くない死に方」が2020

年夏に公開予定(監督・脚本:高橋伴明/主演:柄本佑)で、すでにクランクアップしたことを明かした。